

8. 研究分担者(所属研究機関名については、研究代表者の所属研究機関と異なる場合のみ記入すること。)

(1) シクロロム c	(2) ヘムタンパク質	(3) 多量体	(4) 変性
(5) 構造変化	(6)	(7)	(8)

11. 現在までの達成度

下欄には、交付申請書に記載した「研究の目的」の達成度について、以下の区分により自己点検による評価を行い、その理由を簡潔に記述すること。また、国立情報学研究所でデータベース化するため、図、グラフ等は記載しないこと。
＜区分＞①当初の計画以上に進展している。 ②おおむね順調に進展している。 ③やや遅れている。 ④遅れている。

(区分) ②おおむね順調に進展している。
(理由) ウマ cyt c の多量体形成機構を種々の分光法を用いて解明するとともに、緑膿菌 cyt c ₅₅₁ の二量体構造を X 線結晶構造解析により明らかにし、cyt c の多量体形成機構に関する知見が得られた。

12. 今後の研究の推進方策

本研究課題の今後の推進方策について簡潔に記述すること。研究計画の変更あるいは研究を遂行する上での問題点があれば、その対応策なども記述すること。また、国立情報学研究所でデータベース化するため、図、グラフ等は記載しないこと。

ウマ cyt c や緑膿菌 cyt c ₅₅₁ とは異なる他の cyt c での多量体形成を調べる。変異型 cyt c を作製し、多量体形成機構を種々の分光法を用いて調べるとともに、安定な高次多量体の作製を目指す。さらに、生体内での cyt c 多量体の形成についても調べ、多量体の機能解明を目指す。

13. 研究発表（平成 23 年度の研究成果）

※ 「13. 研究発表」欄及び「14. 研究成果による産業財産権の出願・取得状況」欄において記入欄が不足する場合には、適宜記入欄を挿入し、それによりページ数が増加した場合は、左端を糊付けすること。

〔雑誌論文〕 計（1）件 うち査読付論文 計（1）件

著 者 名	論 文 標 題						
Z. Wang, T. Matsuo, S. Nagao, S. Hirota	Peroxidase Activity Enhancement of Horse Cytochrome c by Dimerization						
雑 誌 名	査読の有無	巻	発 行 年				最初と最後の頁
Organic and Biomolecular Chemistry	有	9	2	0	1	1	4766-4769
掲載論文の DOI（デジタルオブジェクト識別子）							
10.1039/C1OB05552F							

著 者 名	論 文 標 題						
雑 誌 名	査読の有無	巻	発 行 年				最初と最後の頁
掲載論文の DOI（デジタルオブジェクト識別子）							

著 者 名	論 文 標 題						
雑 誌 名	査読の有無	巻	発 行 年				最初と最後の頁
掲載論文の DOI（デジタルオブジェクト識別子）							

【学会発表】計（2）件 うち招待講演 計（1）件

発 表 者 名	発 表 標 題		
廣田俊、上田真理子、長尾聡、大須賀久織、小森博文、上久保裕生、片岡幹雄、樋口芳樹	ウマシトクロムcおよび緑膿菌シトクロムc ₅₅₁ の多量体形成		
学 会 等 名	発表年月日	発 表 場 所	
第38回生体分子科学討論会	2011年6月23日	筑波大学（つくば市）	

発 表 者 名	発 表 標 題		
廣田俊	ドメインスワッピングによるシトクロム c の超分子化		
学 会 等 名	発表年月日	発 表 場 所	
神戸大学先端融合科学シンポジウム「タンパク質アセンブリー会合、超分子化、凝集－」（招待講演）	2012年1月31日	神戸大学（神戸市）	

【図 書】 計（0）件

著 者 名	出 版 社			
書 名			発 行 年	総ページ数

14. 研究成果による産業財産権の出願・取得状況

【出 願】 計（0）件

産業財産権の名称	発明者	権利者	産業財産権の種類、番号	出願年月日	国内・外国の別

【取 得】 計（0）件

産業財産権の名称	発明者	権利者	産業財産権の種類、番号	取得年月日	国内・外国の別
				出願年月日	

15. 備考

※ 研究者又は所属研究機関が作成した研究内容又は研究成果に関するw e b ページがある場合は、U R L を記載すること。

--